『秘境』を読んで

青森・大湊高校　２年　萩野　茜

合掌、ありがとうございます。

私は、「現代のような生活と、サヨの故郷のような生活」どちらを選ぶ？と訊かれたら、「サヨの故郷のような生活」を選びます。

確かにテレビも、携帯電話も、電気も、水道も通ってなくて、現代から考えればとても不便なものだと思いますが、そこには、神様が与えてくれた必要最低限のありのままの自然があります。

自然界の中の人間の行動には、限度があり、人間は欲張らずに今の自分に必要なモノだけを得ようとします。しかし現代では、科学などが進歩し、お金というものがうまれ、人間はその金に溺れ、段々と欲張りになり、必要最低限のものでは満足せず、常に「あれが欲しい、これが足らない」と不満ばかりもらしているような気がします。そして、どんどん需要を増やし、自然界の需要と供給のバランスさえも崩してしまっています。ですが、私もそんな現代を生きる人間なので「自然界のバランスは崩していない」と言ったら嘘になります。なので、私は自然を大切にできるように、自分に必要最低限のものだけを求めてゆきたいと思いました。

私が最初にこの本を読み始めたとき、「景色をイメージしづらいな」と思いました。森や、湖の色や様子、ダムなど…。イメージしづらいながらも読み進めていくと、何故、自分がイメージしづらいかわかりました。私がイメージ出来なかったのは、自然の風景だけで、他の、人物や、人工物のイメージは簡単に思い浮かべることが出来ました。

何故、自然の風景がイメージ出来なかったか。私はあまり自然と接していなかったからです。森は写真で見たことがあるのでイメージ出来ましたが、ダムや湖の様子は、自分の目で見たり、写真で見ることがなかったので、あまりこの本に入り込むことが出来なかったのです。

話の内容以外にも、「私は自然と接し、大切にするべきだ!!」と気づかされることが、意外なところに潜んでいました。

これからもレジ袋削減や、マイはしなどに力を入れて、自然を大切にしていきたいと思いました。

再　拝